

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「超スマート社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

サイバーとフィジカルの高度な融合に向けた AI 技術の革新

3. 研究開発課題名

分散型匿名化処理によるプライバシープリザーブド AI 基盤構築

4. 研究開発代表者名(機関名・役職は評価時点)

斎藤 英雄 (慶應義塾大学 理工学部 教授)

5. 評価結果

評点: A (優れている)

総評:

本研究開発課題は、プライバシー保護を行いながら、不特定多数のモバイル AI がクラウド AI や周囲のモバイル AI と連携できる基盤技術を構築し、視覚障害者の行動支援をユースケースとして、すべてのモバイル AI 利用者がサイバーフィジカル空間を共有しながら適切なユーザ行動支援の恩恵を受けることができる未来社会の実現を目指すものである。

探索研究期間では、プライバシー保護技術としては、モバイルカメラが撮像した画像を、人物の属性情報(性別・髪色等)を 81.9%の精度で保存しつつ匿名化(別画像化)する技術等を開発したことを評価する。

また、視覚障害者の行動支援については、一般社団法人次世代移動支援技術開発コンソーシアムと連携しつつ、視覚障害者が単独で列に並ぶ事をスマートフォン一台で支援するシステム、他の歩行者等と衝突せず安全に歩行できる行動支援システム等の実証実験が着実に行われ、優れた成果が認められた。

今後は、視覚障害者の行動支援に留まらず、より幅広い社会インパクトを持つユースケースとその具体的なシナリオを明らかにした上で、新しい IT サービスの社会実装に向けた研究開発が発展することを期待する。

以上